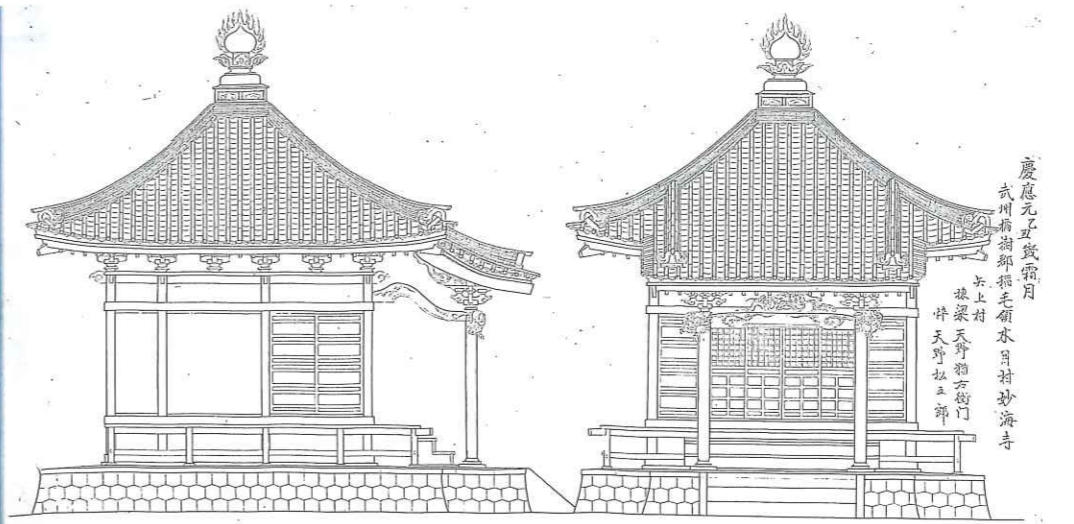


〔会社概要〕株式会社天野工務店
 ●創業 天保5（1834）年
 ●事業内容 社寺建築および木造注文住宅の設計ならびに総合請負
 ●本社 TEL045（66）24109
 ●神奈川県横浜市港北区日吉7-6-16

株式会社天野工務店 神社仏閣建築の技術を継承

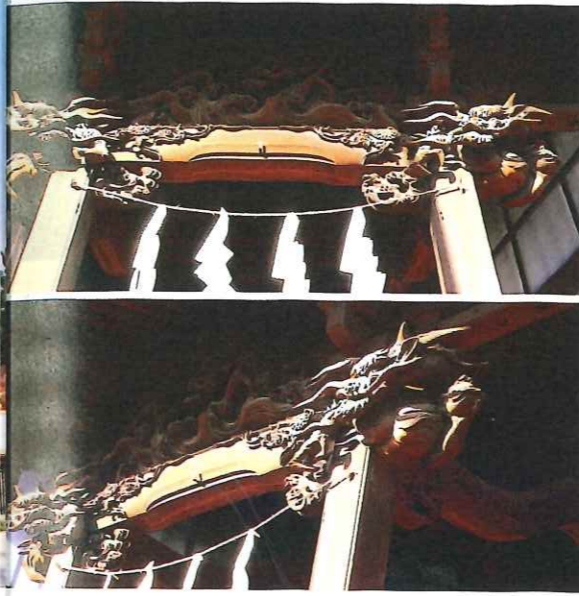
写真・資料提供〇株式会社天野工務店



慶應元子武蔵宮
 武州新編御毛領水戸村妙海寺
 井上村
 棟梁 天野直右衛門
 井上村 天野直右衛門



（上）妙海寺に残る図面
 （下）創業者の天野直右衛門



（上下）初代直右衛門が彫った日枝神社の彫刻



（上）天野工務店が手掛けた川崎市麻生区の臨濟宗建長寺派香林寺の五重塔。
 昭和62（1987）年竣工



（上）作業場で木材を見る天野哲也さん
 （下）現在、本堂改修工事を手掛けている東京都大田区の安詳寺



港区日吉にある社寺建築と木造注文住宅の設計・建築を行う株式会社天野工務店は、今年で創業183年を迎える。横浜市内で創業し、現在も同じ場所で仕事を続けている会社としては、横浜市内で最も古い企業といわれている。

初代・直右衛門は、日吉周辺が武蔵国橋本郡と呼ばれていた頃の文化8（1811）年、矢上村（現・港北区日吉）に生まれた。12〜13歳頃川崎の宮大工に弟子入り後、天野家の養子となり、名を天野直右衛門と改めた。そして宮大工の初仕事として天保5（1834）年、矢上村の熊野神社の社殿建築を手がけた。このことから天野工務店では、この天保5年を創業年としている。

職人の技を活かす経営

現在、同社を率いているのは、6代目の天野哲也だ。幼いころから自宅裏の作業場は彼の遊び場であり、木の香り、温もりには自然と親しんでいた。抵抗なく家業を継ぐことができた。同社は昭和30年代に法人組織（株式会社）に改めたときから、建築仕事は職人に任せ、代表は経営に専念するようになっていく。「祖父の代までは宮大工として仕事をしながら工務店の経営もしていました。が、この二つの仕事はまったく性格の異なる仕事ですから大変です。そこで

分業にしたのだと思います」

現在、天野工務店には5人の宮大工がいる。棟梁は40代、最も若い宮大工は20代だ。宮大工は社寺建築を専門とする大工で、釘などの金物を使わず、木を巧みに組み合わせる社寺建築を得意とする。社寺建築にとっても、建築と同様に重要なのは彫刻だ。かつての宮大工は建築だけでなく、山門や本殿を飾る彫刻も手がけていた。基本の形はあるが、飾りの細かいデザインは宮大工個人のセンスによるものが大きく、彫る技術とともに、腕の見せどころだった。

「初代も彫刻を得意とした宮大工でしたが、現在は分業化が進んで、宮大工とは別に彫刻専門の職人がいます。弊社にはたまたま祖父の代から江戸木彫刻の職人がいて、現在はその孫に当たる職人が働いているので、建築から彫刻まで行っています」

宮大工の仕事である神社仏閣は後世に長く残るものだ。しかし、それらも天災や戦争で焼失してしまうことがある。このページの一冊に掲載されている図面を「ご覧いただき。これは天野家の菩提寺である妙海寺の設計図で、100年以上前に初代が描いたものだ」という。図面には慶應元（1865）年とある。

「初代が造った山門などは明治時代に焼失してしまいました。この図面はたまたま妙海寺さんが保管されていたので残っていますが、他の図面や資料は、関東大震災や戦時中の空襲で焼失してしまいました」

次の世代に伝える責任

神社仏閣の建築には長い時間がかかる。新たなものを造る場合は、計画段階から10年かかる場合も少なくない。現在工事をしている東京都大田区の寺の場合、昭和40年代に葺き替えた屋根に50年ぶりに手を入れている。1年がかりの修復作業だ。

「神社仏閣の建築は、新築はもちろんですが、改修作業でもとても費用がかかります。特に神社の場合は地域の氏子さんたちが費用を出すので、とても大変だと思います。だから神社の様子を見るとその地域のことがよくわかるんです」

天野工務店から徒歩20分のところに寛永15（1638）年の創立といわれる日枝神社がある。この神社の本殿は初代・直右衛門が造った建物として唯一現存するものだ。4代目の時代に茅葺き屋根を瓦にする大改修を行い、平成26（2014）年にも改修を行った。この時、初代・直右衛門が本殿に施した江戸時代の彫刻は、氏子たちの意思で取り外すことなく、残されたという。

「初代の仕事を残して下さって感謝しています。と同時に、この神社が地域の方々に大切にされていること、地域の皆さんの心の拠り所になっていることを実感しました」

創業183年の歴史とともに、地域の人々の思いを背負っていることにプレッシャーはないのだろうか。

「これまでの歴史も大切ですが、これからも続けていくこと、技術を継承していく重みを感じています。神社仏閣の建物は年月が経つとメンテナンスが必要になりますが、その時に、造った時の技術が途絶えてしまっていたらメンテナンスができません。そのようなことは避けたいのです」

メンテナンスも伝統としての工法は守りながら、新しい工法に取り組み、新しい方法を見つけている。過去にとらわれない柔軟な考え方が必要だ。「私たちの仕事は完成したときは、注文してくださった方々に評価されます。その後、何十年か経ってメンテナンスが行われるときには、後世の職人に評価されます。こんなすごい技術で造ったのか、この彫刻はセンスがいい、と。古い建物を修復する時、ときどき、部材の後ろなどに宮大工の名前が残っていることがあります。これは私の仕事だと誇りを持って書いたのでしょうか。その気持ち、よく分かります」

（敬称は略させていただきます）

鳥の目で横浜を遊覧しよう!

横浜市との
協働編集誌
2017年春号
Vol. 56
神奈川新聞社

横浜

Y O K O H A M A



特集

横浜 楽しむ地図を

林市長のほっとTIME
ゲスト
有森裕子さん
(元マラソン選手)

買い者・荻野アナナの「商店街は面白い」
「丸山台いちょう坂商店会」(港南区編)

町の記憶
港北区日吉本町

特別価格 680円(税込み)